

## 第58回日本小児保健協会学術集会 ミニシンポジウム3

保育所・幼稚園に通園する発達障害を持つ子どもと母親への対応

## 保育園における“気になる子ども”への支援と 保護者への支援

西垣直子 (社会福祉法人教泉会黒野保育園)

保育園で特別に配慮を要する子どもたちの保育を進めるに当たって、子どもの発達支援、保護者の支援について日頃から感じていることを述べる。

### I. 子どもへの支援

保育園では子どもの今の生活が充実していくように力を尽くすのが大切な使命だと考えている。子どもの生活の充実がその後の成長に繋がり保護者の安心にも繋がるからである。個別支援の必要な子どもについても同じである。それに加えて、特に当園で気をつけていることは以下の通りである。

- ① 保育士がその子に合った関わりの具体的な手だてを持ち、それを検証していくこと。
- ② 個々の子どもへの関わりだけでなく、クラスの他の子どもの中に、いかにその子を位置づけていくか。個別支援だけでなく、集団の中の個という視点を持つこと。
- ③ 気になる子どもの所属するクラスを保育園全体でサポートしていくこと。

保育士の多くは受容的な姿勢で子どもを受け止めようとするが、愛情を注ぐ、根気よく等という漠然とした心構えだけでは気になる子どもの成長に繋がる支援は難しい。専門家によって関わりの手だての方向性を示してもらうことで、保育士はその子どもの現状に応じた具体的な手だてを生み出しやすくなり、関わりの結果を次の関わりに反映させられるようになってくる。この繰り返しによって保育士に見通しができることを強く感じている。

### II. 保護者への支援

保護者の状態に応じた支援のあり方を常に意識することが必要である。すでにその子の特徴について理解し受け入れている保護者への支援と、健診で指摘されて子どもの状態がまだ納得できない保護者の方への支援は異なってくる。さらに保育士が気付いてその子の発達が気になり始めた子どもの保護者への支援はまた大きく様子が違ってくる。しかしどの保護者に対しても共通するのは、保護者を孤立させないようにすることである。

保護者を支えることはとても難しい。保育園で力を注ぐ必要のある支援は、子どもの発達を支えるために、子どもの行動の特徴を保護者にいかにわかってもらうかである。保護者が自身で専門機関と連携がとれるところまでいかに支え、繋げていくかが重要である。

### III. 支援に関する今後の課題

成長が著しい2歳児では、保護者が発達の遅れを受け入れ難い場合が多く、保護者への支援のあり方を模索中である。

子どもが家庭で見せる姿と保育園で見せる姿、また療育機関で見せる姿に違いがあることがわかっている。それぞれの違いを知ったうえで三者間で連携を図っていく必要を感じる。特に医療機関と保育園との連携は今後の課題だと感じている。